

『地域から子供たちに伝える戦争と平和』語る、繋ぐ、残す



学校応援隊はえぼる

できる人が・できることを・できるときに

南風原町学校支援地域本部事業

平成27年7月15日

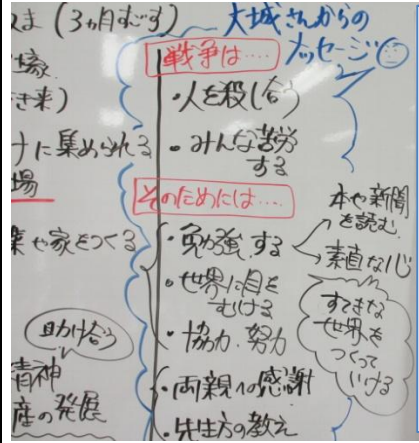
第 21 号

「人から人へ、モノから人へと受け継がれる南風原の記憶」
沖縄慰霊の日を迎える六月。各学校では平和旬間が設けられ、戦争体験者の方々や地域の専門家を招き、戦争と平和について考える授業が行われ

「あの頃はね・・・」



神里富夫さん（津嘉山）「ハイサイ、ワンナー神里富夫ンディチ、イーヤピーン」と方言で挨拶し、戦争前の津嘉山や学校の様子、防空壕掘りや戦闘機による攻撃、兵隊と住民の生活などを話しました。お話の最後には家族の集合写真を見せて、「生き残ったからこそこんな幸せがある。皆さんもお父さんお母さんからもらった自分の命を大事にして、目標を持って頑張ってください」と語りました。



大城敏雄さんの話しを先生がボードにまとめ、講話の振り返りをしました。



大城敏雄さん（照屋）戦前・戦中の大城さんの生活と、今の自分たちの生活を比べながら話しを聞いた子供たち。休み時間もたくさん質問をしていました。大城さんの体験をまとめた資料は、先生方にとっても勉強になったと話していました。

～学童疎開、71年目を迎えて～

「南風原の沖縄戦」
自分たちの身近にある戦争遺跡の写真に驚きの声上がり、字別の戦死者数の違いには「なぜそうなったのか？」など、児童から質問がありました。

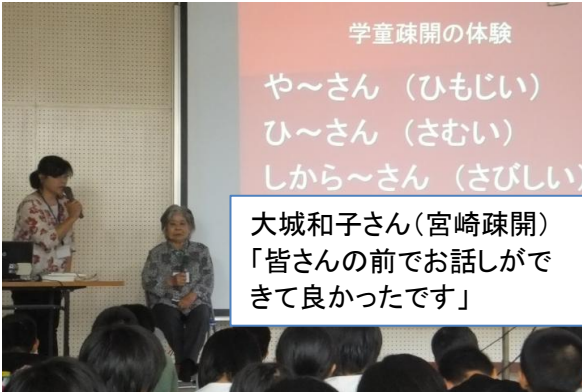
学童疎開をした方々から話しを聞き、子供たちは当時の様子を具体的にイメージする事ができました。「疎開先で沖縄は玉砕したと聞かされた。南風原に帰ってきてても、迎えに来てくれる家族は誰もいなくてとても悲しかった」との赤嶺さんの話しに、思わず涙する児童もいました。学芸員平良さんの講話では「なぜ疎開しなければならなかったのか？自分だったらどうするか？」との問いかけに、活発に意見が出ました。



文化センター
熊野仁美さん



学芸員 平良次子さん



学童疎開の体験

や～さん（ひもじい）
ひ～さん（さむい）
しから～さん（さびしい）

大城和子さん（宮崎疎開）
「皆さんの前で話しができて良かったです」



金城安清さん
赤嶺善助さん（熊本疎開）

～写真や遺物を通して、戦争を考える～

発掘された不発弾や砲弾の破片、日本兵や住民の遺骨の写真を見せながら当時の様子を話しました。砲弾の破片を手にした児童は「こんなモノが飛んできたなんて・・・」と声をつまらせ、寄り添う親子の遺骨の写真を見た児童は「自分の家族や友達だったら絶対に嫌だ」と話していました。「今年で戦後70年だが、投下された不発弾の撤去にはあと80年かかる」との説明には、児童から「戦争はまだ終わっていないと思う。僕たちの子や孫にまで影響がある事がわかった」との感想がありました。



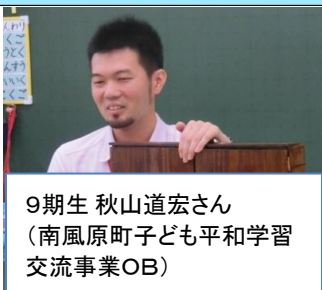
学芸員 保久盛陽さん

南風原平和ガイドの会による『南風原の戦争体験紙芝居3部作「二度目の約束」「聞けなかったおかえり」「13才のわかれ」の読み聞かせ』

小学校低学年では、沖縄陸軍病院20号壕のガイドの皆さんが壕の説明と紙芝居を読み、児童の質問に答えました。今回は、平成26年度南風原平和ガイド養成9期生4名が初めて授業に参加しました。飯上げの道で運ばれていた「おにぎり」の再現や、壕を撤退する時の負傷兵の様子など、児童は真剣に聴いていました。読み聞かせ終了後は、「だれが、なぜ戦争を始めたの？」「疎開から帰って来た人はその後どうやって生活したの？」「戦争で死んだ人はどうやって数えたの？」など、質問が相次ぎ、ガイドの皆さんは丁寧に答えていました。



9期生 長嶺由美子さん



9期生 秋山道宏さん
（南風原町子ども平和学習
交流事業OB）



9期生 國吉道子さん



9期生 新垣幸江さん



あなたも学校の応援団になりませんか？ **ボランティア募集中！**
★未来を担う南風原町の子供たちを地域で育てましょう★

南風原町教育委員会
生涯学習文化課
TEL 889-0568



夏休み！

